

令和7年度 第1回女川町地域公共交通会議
モビリティ研究会における検討状況について

令和7年11月17日
女川町企画課

Contents

I. モビリティ研究会の趣旨	P3
II. これまでの開催経過について	P4
III. 今後の検討について	P7

I. モビリティ研究会の趣旨①

- 令和6年3月に策定した「女川町地域公共交通計画」において、「みんなで育てる公共交通」を目標に掲げており、交通事業者や行政に加え、地域住民・企業・地域団体と協力・連携し、将来のまちの姿を見据えた持続可能な公共交通の実現を目指し、検討する場として「モビリティ研究会」を立ち上げ。
- モビリティ研究会には、交通だけではなく、福祉や医療のほか、地域振興や教育、観光などの色々な分野に携わる人が参加。一緒に議論していく中で、各分野の課題解決にも繋げ、「女川町に合った移動」の実現を目指すもの。

女川町地域公共交通計画（抜粋）

第8章 公共交通の目指すべき将来像

8-1 計画の基本理念と基本方針

女川町地域公共交通計画の基本理念

地域の暮らしを支える利便性の高い公共交通の実現

～コンパクト・プラス・ネットワークでまちづくりを支援～

基本方針1 町民の暮らしとお出かけを支える「便利」な公共交通の実現

町民の日常生活において自家用車は生活必需品となっていますが、高齢者、子供及び都市部からの転入者等の自家用車を持たない交通弱者が自家用車や送迎に頼らずとも気軽にお出かけできる環境を実現します。

また、産業、福祉、教育及び健康等の他分野と協力・連携しつつ新たな需要を掘り起こし、利用拡大に取り組んでいきます。更には、町民の外出促進を図ることによって、町民の健康増進や消費活動の促進、賑わいの創出等が生まれることを期待します。

基本方針2 将来のまちの姿を見据えた「持続可能」な公共交通の実現

人口減少・少子化等を背景に公共交通の利用減・収入減が見込まれる中で、ドライバー等の人材不足や燃料費の高騰等も相まって、公共交通を取り巻く環境は厳しい状況となっています。

町民の広域移動を支えるJR及びミヤコーバスについては、収支状況の赤字が続いており、国、県及び関係自治体で支援しながら維持しています。一方で、本土と出島を結ぶ出島架橋が令和6（2024）年12月に供用開始予定となっていることから、今後まちの姿が変わっていきます。将来のまちの姿を見据え、生活の質の向上に資する持続可能な公共交通を実現します。

基本方針3 技術革新等を活用した「生産性」の高い公共交通の実現

近年、国内外で公共交通を取り巻く交通分野において、ICT・AI技術等の技術革新や新たなモビリティサービスの導入等の様々な状況の変化が生じています。

こうした社会動向を捉え、各種関係者と連携・協働しつつ、技術革新を活用した生産性の高い公共交通サービスの提供を目指します。

I. モビリティ研究会の趣旨②

目標1 町内の移動を支える「地域内交通」の利便性の維持・確保を目指す

- 〔市街地〕
- 市街地では、自家用車を運転しない方であっても生活に支障なく移動することができるように、高頻度で運行するサービス水準の高い公共交通を維持していきます。
 - 町内主要施設を隈なく回り、住民の暮らしに寄り添った公共交通を維持・確保していきます。
- 〔集落地〕
- 市街地から離れていても、安心して住み続けられるように、日常生活に必要な交通サービスを確保していきます。
 - 需要に見合った地域公共交通に見直し、基準を設定することで、持続可能な公共交通網を構築します。

目標2 賑わい創出に資する公共交通サービスを目指す

- 公共交通に対するイメージアップを図るとともに、各種関係者と連携・協力しつつ公共交通の利用を促進します。
- 観光、福祉、教育及び健康等の他分野との連携した公共交通施策の展開により、住民の外出を支援し、賑わいの創出に寄与することで、交通の分野から地域の産業を支えていきます。

目標3 石巻市等との生活移動を支える「広域都市間交通」の維持・活性化を目指す

- 住民の日常生活の中で欠かせない町内と石巻市等を結ぶ「広域都市間交通」については、将来的に維持していくとともに、路線の活性化を目指します。

目標4 みんなで育てる公共交通を目指す

- 交通事業者や行政だけでなく、地域（住民・学校・病院等）や企業（職場・商業施設等）と連携し、継続的に公共交通の維持確保・利用促進などを検討していく場づくりを推進します。
- 交通事業者（運行・運営）、利用者（運賃収入）及び行政（国・県・町の補助等）によって支えることを基本としつつ、公共交通沿線の施設や関係者の協力を得ながら持続性を高めていく取組を検討します。

目標5 利用しやすい環境を目指す

- 町内に存在する多種多様な地域公共交通を一体的な交通体系として利用できるようにそれぞれの運行情報を一元的に提供します。
- 人材不足や燃料費の高騰、二酸化炭素排出による環境負荷等の社会背景を踏まえ、交通DX・交通GXを推進します。
- 地域の実態や利用特性を踏まえて、自動運転や先進技術を活用した新たな交通システムの導入について、積極的に調査・研究を進めます。

目標	No	施策・事業	事業概要	重点施策
目標1 町内の移動を支える「地域内交通」の利便性の維持・確保を目指す	1-1	市街地における「地域内交通」のサービス水準の維持	・町民バスの維持・活性化 ・乗用タクシーの活用やライドシェア等の新たな移動手段の導入検討	●
	1-2	集落地における「地域内交通」の再編・見直し	・町民バスの再編・見直し検討 ・(仮称)出島線の地域公共交通確保維持事業(フィーダー補助)の活用検討 ・オンデマンド交通や乗用タクシーの活用等の新たな交通手段の導入検討 ・貨客混載(貨客運送効率化事業)の導入検討 ・スクールバスと町民バスの統合検討	●
	1-3	離島航路の再編・見直し	・女川町 離島航路改善計画の策定 ・航路再編や予約運航等の運航形態の検討 ・代替船舶の導入	●
目標2 賑わい創出に資する公共交通サービスを目指す	2-1	公共交通のイメージ戦略	・公共交通のイメージアップに繋がるプロモーション・PRの実施 ・教育機関等との連携	●
	2-2	公共交通を利用するきっかけづくり	・モビリティマネジメント(高齢者、学生、転入者・移住者等)の展開 ・施設・企業等との連携	●
目標3 石巻市等との生活移動を支える「広域都市間交通」の維持・活性化を目指す	3-1	JR石巻線の維持・活性化	・JR石巻線の利用促進策の検討・実施 ・国、県及び関係自治体等との協議・連携	●
	3-2	ミヤコーバス女川線の維持・活性化	・ミヤコーバス女川線の利用促進の検討・実施 ・国庫補助及び県補助等による財政支援の活用	●
目標4 みんなで育てる公共交通を目指す	4-1	みんな育てる場づくり・組織運営	・公共交通に係る担当者会議の継続的な開催 ・(仮称)モビリティ研究会の立ち上げ・運営	●
目標5 利用しやすい環境を目指す	5-1	交通結節点の機能向上	・デジタルサイネージやスマートバス停の導入検討(女川駅、蒲宿駅、認定こども園等) ・多様な移動手段の利活用	●
	5-2	交通DX・交通GXの推進	・デジタルサイネージやスマートバス停の導入検討(女川駅、蒲宿駅、認定こども園等) ・バスロケーションシステムの導入検討、GTFSの整備検討 ・キャッシュレス決済手段、デジタル身分証アプリの活用等検討 ・電気バス、燃料電池タクシー等の導入検討	●
	5-3	バリアフリー化の推進	・情報提供のアクセシビリティの向上	●
	5-4	自動運転等の調査・研究	・自動運転等に関する情報収集、導入可能性調査	●

Ⅱ.これまでの開催経過について①

Ⅰ モビリティ研究会キックオフ講演会

- ・日 時 令和7年1月31日(金) 18時から19時30分まで
- ・場 所 女川町まちなか交流館ホール
- ・参加者 22名(一般町民、社会福祉協議会、商工会、観光協会、(一社)女川未来会議 出島プロジェクト、(一社)まち
とこ、地域おこし協力隊、役場職員(都市計画、教育、観光、公民連携))
- ・講 師 早稲田大学スマート社会技術融合研究機構 研究院客員准教授 井原 雄人 様
- ・内 容 ①講演 これからの女川町の移動についてみんなで考えよう
②自律走行ロボット:cocomoの走行追従体験

- ・モビリティ研究会の立ち上げにあたり、そのきっかけづくりとして講師をお招きしキックオフ講演会を開催。「これからの女川町の移動をみんなで考えよう」をテーマに講演いただいたほか、参加いただいた一般町民や幅広い分野の団体に対しモビリティ研究会で検討していきたいテーマや参加者が抱えている移動に関する課題についてアンケート調査を実施。
- ・アンケートを取りまとめ、検討したいテーマや課題を分類・整理したうえで、モビリティ研究会において検討することとした。

(アンケート調査の結果)

- ・モビリティ研究会で検討したいテーマ:①デマンド交通、②自動運転、③シニアカーの活用や買い物支援
- ・参加者が抱えている移動に関する課題:①タクシー不足、②町民バスの不便さ、③観光客の移動手段

Ⅱ.これまでの開催経過について②

2 第1回モビリティ研究会

- ・日 時 令和7年5月28日(水) 18時から19時20分まで(@女川町生涯学習センター 研修室)
- ・参加者 21名(社会福祉協議会、(一社)女川未来会議 出島プロジェクト、(一社)まちとこ、地域おこし協力隊、中央復建コンサルタンツ(株)、佐藤工業(株)、地域医療センター、(一社)女川フィルムコミッション、役場職員(福祉、介護、教育、観光、公民連携))
- ・講 師 早稲田大学スマート社会技術融合研究機構 研究院客員准教授 井原 雄人 様
- ・内 容 ①モビリティ研究会の開催趣旨と今後の進め方、②キックオフ講演会の振り返り、③移動に関する課題の共有とグループ分け、④グループ毎の話し合いと目標の設定
- ・キックオフ講演会のアンケート結果を基に3つのグループ分けを行い、各グループ毎に①困っている人の量や質の掘り下げ、②こうあって欲しい、こうなれば良いのではといった理想の状態(ゴール)の共有、③グループ毎の今年度の目標について話し合いを行った。
- ・各グループの目指すべきゴールと今年度の目標
 - Aグループ「高齢者や買い物弱者に対する移動課題を検討するグループ」
目指すべきゴール:乗りたいときにすぐ乗れるバス・タクシーの仕組みの実現
今年度の目標:理想の交通の実現に向けて、具体的な要件を整理
 - Bグループ「今の移動手段をもっと便利にしたいグループ」
目指すべきゴール:もっと小回りが利き自由に使え、夜間はタクシーの役割も兼ねるデマンド交通の仕組みの実現
今年度の目標:デマンド交通を導入できるかどうかを判断する
 - Cグループ「観光客の移動を検討するグループ」
目指すべきゴール:観光客増加に向けた仕組みの実現(先進モビリティの活用や自動運転の導入など含め)
今年度の目標:駅前以外のエリア(離半島部など)の観光を盛り上げるモビリティのアイデア出し

Ⅱ.これまでの開催経過について③

3 第2回モビリティ研究会

- ・日 時 令和7年9月25日(木) 18時から19時30分まで(@女川町生涯学習センター 研修室)
- ・参加者 33名(一般町民、社会福祉協議会、(一社)女川未来会議 出島プロジェクト、(一社)まちとこ、地域おこし協力隊、地域医療センター、商工会、観光協会、水産加工研究会、まちづくり会社、役場職員(福祉、介護、教育、観光、公民連携))
- ・講 師 早稲田大学スマート社会技術融合研究機構 研究院客員准教授 井原 雄人 様
- ・内 容 ①モビリティ研究会の開催趣旨と今後の進め方、②前回の振り返り、③今日の話し合いの進め方、④グループ毎の話し合い
- ・前回のグループ毎に話し合った理想の状態の共有後、現状と理想の状態を埋める方法(解決手段)について検討。
- ・各グループで出されたアイデア
 - Aグループ「高齢者や買い物弱者に対する移動課題を検討するグループ」
 - 元気高齢者が引きこもらず外出できるような環境作り
 - ・シニアカー、シーウォークなど1人で移動できるようなモビリティの活用(免許返納者への購入補助など)
 - ・デマンドタクシー(乗合)の運行
 - Bグループ「今の移動手段をもっと便利にしたいグループ」
 - 町民バスのデマンド導入を前提に検討を進める
 - ・次回以降、バス停の場所・数、担い手、予約方法など具体的な仕組みを検討
 - ・町民が利用しない時間は観光客も利用できるような仕組みも検討
 - Cグループ「観光客の移動を検討するグループ」
 - 小型モビリティの貸し出し、グリーンスローモビリティの運行
 - 宿泊施設で車両を共有し、お客さんを送迎するサービスの導入
 - 町民バスの回送車両へ乗車できる仕組みを検討

Ⅱ.これまでの開催経過について④

4 モビリティ研究会（番外編）

- ・日 時 令和7年11月4日（火） 9時から14時まで（@南三陸町さんさん商店街）
- ・参加者 15名（一般町民、社会福祉協議会、まちづくり会社、役場職員（公民連携））
- ・内 容 AIを活用したデマンド交通システムの乗車体験
- ・第2回モビリティ研究会の参加者からデマンド交通の現地体験実施について提案があり、今後の研究会での検討に資するため、南三陸町デマンド交通 SmartGOTOの乗車体験会を実施。体験を通じた感想についてアンケートを実施。
- ・参加者の感想
 - 実際に乗車してみて便利だと感じた。
 - 現在よりバス停を多く設置できるのであれば、利用し易くなるのではないか。
 - 利用者が不便だと感じている帰りの時間に合わないといった課題にも対応できるのではないか。

5 町民バス乗降調査の実施

- ・町民バスの利用実態や利用者の意向等を把握し、今後の再編に向けた検討資料とすることを目的に乗降調査を実施。
- ・調 査 日 令和7年8月4日（月）～6日（水）、8月28日（木）・29日（金）
- ・調査路線 町民バス6路線（まちなか線【宮ヶ崎・浦宿経由 西区行き】、まちなか線【西区・浦宿経由 宮ヶ崎行き】、安住・針浜線、五部浦線、北浦線、出島線）
- ・調査区間 調査路線の全区間・全便
- ・対 象 者 調査路線の利用者全員
- ・調査方法 調査員の調査票配布によるアンケート調査
- ・調査結果 別添のとおり

Ⅲ. 今後の検討について

1 第3回モビリティ研究会

- ・日 時 令和7年12月2日(火) 18時から19時30分まで(@女川町生涯学習センター ホール)
- ・講 師 早稲田大学スマート社会技術融合研究機構 研究院客員准教授 井原 雄人 様
- ・内 容 第2回までに出されたアイデアについて、より具体的なサービスの設計、実施に向けた体制検討
⇒事業化に向け内部調整や関係機関協議が整ったアイデアから、順次予算化を行う方針

2 第4回モビリティ研究会

- ・日 時 令和8年3月中 時間・場所 未定
- ・講 師 早稲田大学スマート社会技術融合研究機構 研究院客員准教授 井原 雄人 様
- ・内 容 ①具体的なサービスの設計、実施に向けた体制検討の続き
②今年度の検討結果のまとめ、次年度検討テーマの検討

3 次年度のモビリティ研究会

- ・次年度も継続して移動に関する課題解決に向け、官民一体で検討を進め、実現可能なアイデアの実証に向け行政側で予算化や実施に向けた内部調整を行う。
- ・福祉や医療のほか、地域振興や観光、教育など、色々な分野に携わる人が連携することで、移動の仕組み作りを通じた地域課題の解決を図りながら、「女川町に合った移動」の実現により、持続可能な公共交通を目指していく。